



令和5年度障害者のデジタル技術活用支援者養成研修

この講座は終了いたしました

1.目的

障害者のデジタル技術支援関連を担当する区市町村職員、障害者福祉センター、障害者就労支援センター等の地域支援者等を対象に、
障害者デジタル技術支援のための研修を開催し、区市町村における障害者のデジタル技術利活用のための基盤を整備する。

2.対象者


- (1)障害者のデジタル技術支援関連を担当する東京都内の区市町村の職員
- (2)障害者のデジタル技術支援関連を担当する東京都内の地域支援者等
(障害者福祉センター、障害者就労支援センター、福祉施設の職員等)

3.研修内容

研修コース表


コース1 聞こえない、聞こえづらいを支えるコース
たしました

6月20日・23日(両日同内容) 終了い


概要	聴力によるコミュニケーションの困難をカバーする	
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none">・聴力によるコミュニケーションに困難をかかえる障害とは・聞こえない、聞こえづらい時のコミュニケーションを助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験)・事例とポイント	

コースの活用	聴覚障害によりコミュニケーションが困難になっている方の支援を、デジタルの活用等を通して考えるコース。 音声認識、筆談など多様なコミュニケーション方法を体験し、教育や就労の現場でも活かせる事例を知る。
主に対象となる障害	聴覚障害 等

コース2 コミュニケーションを支えるコース 7月4日・7日(両日同内容) 終了いたしました

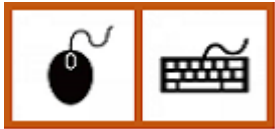
概要	口話によるコミュニケーションの困難をカバーする 一会話補助的な支援技術を中心に(意思伝達装置を除く)	
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・口話によるコミュニケーションに困難をかかえる障害とは ・コミュニケーションを助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験) ・事例とポイント 	
コースの活用	発達障害、言語障害等によりコミュニケーションが困難になっている方の支援を、デジタル技術の活用等を通して考えるコース。 文字盤、絵文字での会話等、多様なコミュニケーション方法を体験し、教育や就労の現場でも活かせる事例を知る。	
主に対象となる障害	発達障害や知的障害、様々な要因による言語障害 等	

コース3 意思伝達を支えるコース 7月25日・28日(両日同内容) 終了いたしました


概要	身体機能の低下による意思表出の困難をカバーする	
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・意思伝達に困難をかかえる障害とは ・意思伝達を助ける支援技術のデモと演習 (専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験) ・事例とポイント 	
コースの活用	身体機能の低下によって意思伝達が困難になっている方の支援を、デジタル技術の活用等を通して考えるコース。 スイッチによる文字やシンボルの選択の他、視線入力などを体験し、自宅や病院等の生活を支えていく際の資料となる。	
主に対象となる障害	神経難病や、脳血管障害の後遺症 等	

コース4 肢体不自由による操作困難を支えるコース 8月8日・10日(両日同内容) 終了いたしました


概要	肢体不自由による情報機器の操作困難をカバーする
----	-------------------------

カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器の物理的な操作に困難をかかえる障害とは ・操作困難を助ける支援技術のデモと演習（専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験） ・事例とポイント 	
コースの活用	<p>肢体不自由の方の情報機器利用の支援を、デジタル技術を活用する道具等を通して考えるコース。</p> <p>特別な支援機器の他、Windowsやスマートフォン・タブレットが基本機能として持っているアクセシビリティを学び、教育や就労の場でも活かせる事例を知る。</p>	
主に対象となる障害	上肢障害（肢体不自由） 等	

コース5 見えない、見えづらいを支えるコース 8月22日・25日（両日同内容） **終了いたしました**

概要	視力による情報利用の困難をカバーする	
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・視力による情報入手に困難がある障害とは ・弱視、あるいは全盲の方等の機器操作を助ける支援技術のデモと演習（専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験） ・事例とポイント 	
コースの活用	<p>弱視や全盲の方等の情報利用の支援を、デジタル技術の活用等を通して考えるコース。</p> <p>特殊な支援機器の他、Windowsやスマートフォン・タブレットが基本機能として持っているアクセシビリティを学び、教育や就労支援の場でも活かせる事例を知る。</p>	
主に対象となる障害	視覚障害（全盲、弱視）、その他視力があっても見えづらさをかかえている方 等	

コース6 理解、認知、記憶を支えるコース 9月5日・8日（両日同内容） **終了いたしました**

概要	障害や疾病により、理解や認知、記憶等の困難をカバーする	
カリキュラム	<ul style="list-style-type: none"> ・理解、認知、記憶等に困難をかかえる障害とは ・様々な場面での支援技術のデモと演習（専用機、汎用機、周辺機器の活用例、スマートフォン・タブレットの実機体験） ・事例とポイント 	

コースの活用	テクノロジーだけでなく、アナログな道具も見直し、記憶や認知などの個別の困難さの支援を考えるコース。 活用事例を知り、地域で難しさをかかえる方への情報提供や、教育や就労の場でも活かせる事例を知る。
主に対象となる障害	発達障害、高次脳機能障害、知的障害、失語症 等

●研修の特徴

上表の6つのコースから、地域の課題にあわせて必要とするテーマを選択受講する。

1コースから受講ができ、2コース以上の受講も可能とする。

全コースとも、タブレットやスマートフォンなど身近な機器で実現できる技術を中心に実機を使った操作実習を取り入れ、現場の対応力をたかめる。

4.研修日程

(1)コース1

6月20日(火曜日)、6月23日(金曜日)(研修内容は両日とも同じ) 午後1時～5時

(2)コース2

7月4日(火曜日)、7月7日(金曜日)(研修内容は両日とも同じ) 午後1時～5時

(3)コース3

7月25日(火曜日)、7月28日(金曜日)(研修内容は両日とも同じ) 午後1時～5時

(4)コース4

8月8日(火曜日)、8月10日(木曜日)(研修内容は両日とも同じ) 午後1時～5時

(5)コース5

8月22日(火曜日)、8月25日(金曜日)(研修内容は両日とも同じ) 午後1時～5時

(6)コース6

9月5日(火曜日)、9月8日(金曜日)(研修内容は両日とも同じ) 午後1時～5時

5.研修会場

東京都社会福祉保健医療研修センター 303教室

(〒112-0006 東京都文京区小日向四丁目1番6号)

6.定員

各コース 8名

7.受講料

無料

8.申込方法

下記の要領で希望のコースと希望の日程をオンラインで申し込む。

- ① 東京都障害者IT地域支援センター（以下ITセンター）のサイトのトップページから「令和5年度障害者のデジタル技術活用支援者養成研修コース一覧」に飛び、「受講申込フォーム」にて、希望のコースや日程など必要事項をITセンター事務局へ送信する。

- ② 受講決定は閉館日を除く2日以内に、ITセンターからメールで通知される。

（必要に応じて電話による聞き取りが行われる場合がある）

キャンセル待ちの受講可否は、空席が出次第、ITセンターより電話連絡がある。

また、研修一週間前までには、受講の最終確認（リマインド）の電話がITセンターから入る。

※留意事項

受け付けは申し込み順となる。1つのコースについては、1事業所から1名の受講を基本とするが、追加1名を補欠として申し込むことができる（電話申し込みのみ）。

研修一週間前に空席がある場合に限り、調整の上、補欠の方の受講が可能となる。

9.申込期限

令和5年6月16日（金曜日）

（一応、締め日はありますが、定員になったコース以外は受付可能です）

10.申込み先

東京都障害者IT地域支援センター

【所在地】〒112-0006 東京都文京区小日向四丁目1番6号

東京都社会福祉保健医療研修センター1階

【電話番号】 03-6682-6308

【FAX番号】 03-6686-1277

11.その他

この研修の事務は、社会福祉法人東京コロニーに委託して行う。

12.当事業の運営について

東京都福祉保健局障害者施策推進部計画課意思疎通支援担当

【電話番号】 03-5320-4147 【FAX番号】 03-5388-1413

[戻る](#)

Copyright (C) 2004 Tokyo ITC All rights reserved.